会　　　議　　　録

１　会議の名称　　第４回岡谷市まち・ひと・しごと創生有識者会議

２　会議日時　　　平成27年８月７日（金）午後１時00分～３時00分

３　開催場所　　　岡谷市役所　９階大会議室

４　出席した者の氏名

（１）委員　　　小口泰史委員、笠原新太郎委員、中村文明委員、浅井秋彦委員

大畠一洋委員、花岡欣二委員、中山昇委員、小山智委員

小野正行委員、武田彰委員、薩摩建委員、伊藤敏昭委員

横内敏子委員、久保寛男委員、太田博久委員

今井竜五委員、宮澤昇委員

（２）執行機関（事務局）小口明則、山岸徹、岡本典幸、小松秀尊、田村賢二、廣瀬智子、仲田健二、

三澤達也、両角秀孝、相河美咲、内尾祟人

（３）その他　　(株)サーベイリサーチセンター　静岡事務所　田原歩

（人口ビジョン・総合戦略策定に関する調査・分析業務　委託業者）

５　議題

（１）「しごと」に関する意見交換（基本戦略１　たくましい産業創造戦略）

（２）「ひとの流れ」に関する意見交換（基本戦略２　岡谷ブランド発信戦略）

①観光、岡谷ブランドについて

②意見交換

（３）その他

６　会議資料の名称

資料１　信州シルクロード連携協議会の設立について

資料２　第３回岡谷市まち・ひと・しごと創生有識者会議意見・質問等連絡票

資料３　産業観光inおかや

資料４　シルク岡谷の絹産業遺産

資料５　第３回有識者会議の議事録

資料６　子育て支援ガイドブック

資料７　第３次岡谷市児童育成計画・子ども・子育て支援事業計画（概要版）

資料８　第３次岡谷市児童育成計画・子ども・子育て支援事業計画

資料９　意見・質問等連絡票

７　発言の内容

|  |  |
| --- | --- |
| 事務局  事務局  事務局  会長  事務局  事務局  事務局  会長  委員  事務局  会長  委員  会長  委員  会長  事務局  会長  委員  委員  委員  委員  会長  委員  会長  事務局  会長  事務局  会長  委員  委員  会長  委員  会長  委員  会長  委員  会長  委員  会長  事務局  会長  事務局 | （１　開会）  定刻になりましたので、始めさせていただきます。本日は、大変お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただいまから、第４回岡谷市まち・ひと・しごと創生有識者会議を開催いたします。会議の前に、市民憲章の唱和を行いますので、恐れ入りますが、ご起立をお願いいたします。次第の裏に憲章文がございます。職員が前文を読みますので、「私たちは」から、ご唱和をお願いいたします。  （全員で市民憲章唱和）  ありがとうございました。ご着席ください。  （２　会長あいさつ）  続きまして、会長よりごあいさつをお願いいたします。  皆さん、こんにちは。皆様には、本当にお忙しい中、また、お暑い中、会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。前回の岡谷市まち・ひと・しごと創生有識者会議では、５人の委員の皆さんから大変参考になるご意見をお聞かせいただいたのち、岡谷市版の人口ビジョンおよび総合戦略の骨子案、そして、岡谷市工業活性化計画について説明をし、しごとについての意見交換をさせていただきました。  本日はその続きといたしまして、しごとについて特に雇用の面についてご意見をいただければと思っております。その後、岡谷ブランドブックや、岡谷市の観光の取り組みについて担当職員よりご説明を申し上げ、基本戦略２、岡谷ブランド発信戦略について議論をしてまいりたいと考えております。  昨年の８月、ものづくりの精神と新たなシルク文化を生み出す、岡谷ブランドの発信拠点および新たなまちなか観光の拠点施設といたしまして、岡谷蚕糸博物館、シルクファクトおかやという愛称でございますが、リニューアルオープンをいたしました。繭の香りが漂う館内で、実際に糸をとっている姿をご覧いただくことのできる世界にも類のない博物館は、岡谷市と姉妹都市であります富岡市の富岡製糸場が世界文化遺産に登録をされたことにより、シルク文化が脚光を浴び、連日多くの来場者で賑わっております。また、４月には、シルク文化を広く発信するため、信州シルクロード連携協議会を発足いたしまして、広域連携による取り組みを行っているところでございます。さらにシルクファクトおかやを起点とした近代化産業遺産めぐりや産業観光など、ものづくりのまちとして岡谷ブランドを発信し、新しいシルク文化の構築につなげるとともに、広域連携による新しいひとの流れをつくっていきたいと考えております。皆様におかれましては、観光や移住、交流などのひとの流れについてどのように考えをお持ちか、お気軽にご発言をいただきたいと思いますので、本日はよろしくお願い申し上げます。  ありがとうございました。本日は、都合によりまして、早出委員さん、中村麻紀委員さん、小池委員さん、小林委員さん、中田委員さんがご欠席でございます。会議事項に入る前に、資料の確認をお願いいたします。  それではお願いします。お手元の資料でございますけれども、本日もたくさんお配りをさせていただいてございますので、ご確認をお願いしたいと思います。まず次第がございまして、その次に右肩に第４回有識者会議資料１ということで信州シルクロード連携協議会の設立についてというもの、それと、意見・質問等連絡票ということで、事前にいただいてあるものの塊が１つ、それと、パンフレットが２つ、産業観光inおかやと、シルク岡谷の絹産業遺産ということで、パンフレットが２部、それと、前回の第３回の会議録がまとまりましたので会議録をお手元にお配りをしてございます。その他、子育て支援ガイドブックというＢ５より若干小さめのガイドブックが１つ、それと、第３次岡谷市児童育成計画、子ども・子育て支援事業計画の概要版が１部、それと、輝く岡谷の子どもの育成を目指してということで、計画の本編がございます。その他に横に配らせていただきましたが、意見連絡票が１部と、次回以降の意見・連絡票白紙を配らせていただいてございます。本日お配りした資料は以上でございます。  （３　会議事項）  それでは、会議事項に入ります。今井会長、議事進行をお願いいたします。  それでは、さっそく会議事項に入りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。会議事項「しごと」に関する意見交換を議題といたします。前回事務局へご意見、ご質問のご提出をいただいておりますので、まず、委員さんご発言をお願いいたします。  （１）「しごと」に関する意見交換（基本戦略１　たくましい産業創造戦略）  【意見】  意見要望ということで、４つあげさせていただきました。上１つ、２つは同じ内容なのですが、現状において創業の中心は第３次産業が中心だと思われます。その場合、借店舗の家賃の一部補填等を導入したらどうかということでございます。それからまた、製造業についても、家賃の一部補填それから固定資産税の一部、繰延というのですか、とりあえず、例えば１年間は、固定資産税は後回しでいいような施策がとれるかどうかということをご検討いただけたらという要望でございます。それから、３番目ですが、こちらは前回、ブラック企業というお話もあったのですが、世間が幅広く岡谷市の企業が人に優しく、それから地域に優しく、地域から愛され、郷土から誇りと思われるという企業を育て、他地域に発信することが必要であると思います。そのような企業を、岡谷市とか、商工団体、それから民間の企業など認定する制度を創設しまして、他地域に発信することをご検討されてはいかがかというふうに思います。こちらにつきましては、最近勉強しましたら、横浜市で採用されているようなかたちでやったら良いかと思います。それから最後なのですが、地域内の各企業において、優秀な人材を確保する支援策として、資格取得費の補助制度を、これは対象は企業に対してですが、優秀な人材、そのために資格取得を促す、人材を確保するということで、そのような企業に対して補助制度というものを創設されたらということで、４点でございますが、要望をあげさせていただきました。以上です。  【回答】  最初の２点、サービス産業と製造業の家賃補助の部分にお答えさせていただきます。小売業や飲食店などのサービス業、第３次産業に対しましては、中小小売等店舗活性化事業補助金によって、補助率は３分の１、対象期間は最長２年間で、54万円を限度とする家賃補助ですとか、店舗等の改修費のうち、150万円を超える部分の、３分の１、100万円を限度とするような補助制度が、すでに実施しておりますので、よろしくお願いしたいと思います。次に製造業、ソフトウェア業ですけれども、これは創業のまち岡谷実現事業補助金によって、補助率は２分の１、対象期間は最長で２年間でございます。108万円を限度として、家賃補助をしておりますし、工場等の改修に対して、補助率は３分の１、50万円を限度とする補助制度があります。この他にも、機械装置ですとか、備品を購入した場合の一部補助ですとか、工業技術総合センターの測定機器を使った場合の試験手数料などの補助をしておって、創業者に対するこういう行政の支援策というのは手厚いと思っています。県内の他のまちと比べても、トップクラスだと思っていますので、固定資産税の繰延というところまでは今のところ考えていないのですけれども、今後の動向といいますか、状況をみながらまた考えていけたらなと思っていますのでよろしくお願いいたします。  委員さんからご提案いただきました創業に関しましては、今説明がありましたように、やっているもの、やっていないものありますが、商工会議所のほうの力によりまして、厚くやらせていただいているというふうに今、自負をしているところですが、また色々な情報を集めながら、良いアイディア等をまた考えていけたらと、そういうふうに思いますので、よろしくお願いしたいと思います。  【意見】  この件については県のほうも、いろいろな施策やっておりまして、例えば工業技術総合センターの中に創業支援センターというような部分をつくりまして、岡谷市さんの企業さんだけというわけではないのですけれども、でも実際には諏訪地域の方に使っていただいています。創業するまでの助走期間を支援する施設でありますので、そういうところもご利用いただきたいと思いますし、また、市のほうのそういった計画にもぜひ提携していくみたいなものを載せていただきたい。  ありがとうございます。創業支援センターに入っている企業の皆さんと、地元企業の皆さんと、工業技術総合センターの皆さんと、それから市のほうでやらせていただいている、１つの目的は、創業支援センターを卒業したら、岡谷で仕事をしてもらいたいなという思いもありまして、そのようなことも入れさせていただいているところでございますので、また県からもご支援をよろしくお願いしたいと思います。それでは、とりあえずよろしゅうございますかね。その次、他の委員さんからもご提案というかご意見いただいていますのでよろしくお願いいたします。  【意見】  私が頭の中で想像するのは、シルクの岡谷、昔の昭和の初期のころの岡谷、賑わっていた岡谷のこの賑わいを取り戻そうというふうな頭の中でそういう考え方があります。ですから、基幹産業である製造業、ものづくりをきちんとやって、その次、そのあとに付随するものが自然と備わってくる、簡単にいうとそういう考えで、こういうことを書いてみました。この間の話で、サテライトキャンパスに応募する人が大変少ないというようなことでこれから先のことを考えるに、やはりこういったところの活用をしていかなければいけないというところが１つ、大きくあります。人材の確保、資金の調達、そういった中からどうやって人材の確保をしていくか。それで、企業だけに任せておくというか、あなたのところで誰かやる人がいないかという、そういう考えではなくて、少し書きましたけれども、できるできないは別にして、市の職員として、採用して、必要な、これから伸びる、また必要とされるような企業に人材を配置させて、修士課程、博士課程を勉強していただいて、企業の大きな戦力になっていただくというような大胆な発想をしていかなければいけないのではないかなと思っています。いずれにしても、私も製造に携わってきた人間ですけれども、施策をやって、今年やったから来年完成するというようなことはほとんどないに等しいと思います。ですから、５年先10年先を先読みしながら、人材の確保とか教育とか、そういうことをやっていく必要があるのではないかということで細かいことをここに書きましたけれども、要はそういうことをしていきたいなと思っているところです。岡谷市だけでいいかなというところでは、やはり広い範囲で、この諏訪地方という範囲に及んで、こういったことを進めていかなければならない、その中の１つが岡谷であるというふうな捉え方でいいのではないかなというふうに自分は思っております。それで、４項目の基本戦略があるわけですけれども、まずはトップにあるたくましい産業、これをどうしても優先的に的を絞って前進をさせていく、そのために何をするかというところに重点を置いて、施策を打っていくほうがいいのではないか。あとは、これから論議するようなひとの流れというふうなところが付随をして、子育てというふうなところに流れていくのがいいのかなというふうにこのまち・ひと・しごとの創生の一員として少し勉強したというか、見てきた中では、そのような気がしましたので、私の思うことということで書いてみました。  はい、ありがとうございます。今、色々な関係がありまして、市内の製造業を回らさせていただいております。そしてやはり世の中の皮肉なものでして景気が少し上向いてくると人が足りなくなって人が取れないというようなことを、経営者の皆さんからのお話を聞くわけでございます。そうした中でやはり技術のある人材を採用したいという非常に大きな願望あるようでございます。人材確保ということは本当に大切なことです。それが人口のほうにつながってくる気もします。色々な、製造業の皆さんばかりではないのですが、商工関係の皆さんと打ち合わせをするなど、色々な相談をする中で、どうやったら確保できるかということを考えてまいりたいというふうに思っておりますのでよろしくお願いいたします。それでは、その他に何かご意見をお持ちの委員さんいらっしゃいますでしょうか。とりあえず次に進めさせていただきまして、本日欠席した方からいただいたご意見、質問等について、資料をお配りしておりますので、事務局より内容の説明をお願いします。  【意見紹介】  それではお願いします。第３回岡谷市まち・ひと・しごと創生有識者会議質問等連絡票の１枚目をおめくりいただいた２枚目でございます。  ３つほどございます。まず１つ目、１番上の部分でございます。開発、設計系のサテライトオフィス誘致ということでございます。諏訪地方の多様な技術をもつ企業群が、試作等に素早く対応できる。また、進出企業にとってワーク・ライフ・バランス、通勤時間の短縮、ダイバーシティによる企業力向上、集中による仕事の効率化、オフィスコストの削減、災害リスク管理、優れた生活環境等のメリットがある。また、地元企業の開発力、技術力向上につながる。また、地域の雇用創生につながるということでございます。続いて２つ目でございます。持続可能なエネルギーの開発ということで、強い季節風を利用しつつ、景観を壊さない、高効率の小型風力発電システムの開発製造に、企業連合で取り組む。また、木材、諏訪湖の水草や汚泥等を活用した、効率の良いバイオマス発電システム、または水素製造システムの開発製造に、企業連合で取り組む。また、地域エネルギーの自給体制を確立する。また、地元企業の開発力、技術力向上につながる。また、地域の雇用創出につながるということでございます。３つ目、人材育成システムの構築ということで、幼・小・中・高連携により、幼少期より自然科学やものづくりに触れる機会を増やすということで、デュアルシステムの研究導入ということで、３点ご意見をいただいてございます。  続いて次のページでございますが、まず、議題１ということで、今回のしごとの部分でございますけれども、岡谷市工業活性化計画のアンケート調査結果をみたところ、60歳以上の経営者の方の中には自分の代で廃業予定という方が４分の１いると。後継者問題が大きいと考えていると。また、新規事業を展開していくにも、資金不足、人材不足が理由にあげられていると。ものづくりのまちとして技術を持っていながら、それが活かせない環境であるのが非常にもったいない気がすると。それではこのまちに働きたい、自分の技術をこのまちで発揮したいという人材が集まってこないのではないかと。20代から30代の次代を担っていく人材の確保、育成が急務ではないか。企業はやはり人材である。働きたくなる職場環境、その労働に見合う報酬、労働条件等も大事になってくる。企業が集まるだけではまちは活性化しないと。そこで働く人がこの岡谷市に住んでいただくことが大切ではないかと。家族も増え、人口も増えれば商業も発展するそのサイクルがうまく回ることが理想だということでご意見をいただいてございます。議題２につきましてまた次のところで発表させていただきたいというふうに思っております。以上でございます。  今、項目の中にもございましたけれども、２回目の会議で、安定した雇用環境のもとで働きやすい労働環境をつくり、労働者が生きがいを感じ、会社に尽くしたいという思いから良いアイディアが生まれる。前向きな意識をもつ労働者を多くもつ会社をたくさん育てることが大切というご意見をいただきました。また、第３回の会議では、勤める人にやさしい企業の多い地域にすれば、仕事も会社も労働者も増やせて、まちに住む人も出てくる。皆が勤めて良かったという会社をつくることが企業人として求められるという発言をいただきまして、今もそのような同じような趣旨でございましたけれども、そのようなことで特に雇用、中でも女性の雇用についてご意見をお持ちの委員さんがいらっしゃいましたら、発言をお願いをしたいと思います。女性というのですが、特にこだわらない、雇用全般でご発言いただければと思いますが。  【意見】  ただいま市長さんからお話がありました雇用に関してなのですが、先ほどから人材という言葉が出てきますよね。人は、かなりいると思うのですよ。ですが、いい人材をつくるということの必要性、それが企業を伸ばす１つのキーワードだと思うのですよ。本当に何度も申し上げますが、技専があったり、県の工業技術センターがあったり、岡高さんがあったりして、できあがっているのだけれど、何でそこで仕事をする、いわゆる製造業をするという若者が育ってこないかということですよね。どちらかといえば、これは若者たち、今日本当はこれのメンバーさんに、若い20代30代の方がいらっしゃって、その方たちの意見をお聞きすればよろしいでしょうけれど、どちらかといえばものづくりをする製造業に対しては、やはり３Ｋという部分が出てきてしまってなかなか皆さんが入社されても長くは続かない。若い方たちはほとんどサービス業のほうへ移行していってしまうということが往々にしてあるので、ものづくりものづくりといってもなかなかいい人材が集まってこられないというのは何故でしょうかと逆に私は若い方たちにお聞きしたいくらいな気がするのですよ。それが逆に今日たまたま先生がいらっしゃいませんし、女性の方もいらっしゃらないので、その辺をもう少し掘り下げていかないと、本当に枠はできているのだけれども結局中に入ってくれる人たちの、器だけでもって中身がなくなってしまっているのではないかなという気がします。  【意見】  私どもの職場も女性が大勢います。前にもお話したとおり、うちの職場はパートさんが非常に多くいます。結婚をされて、子育てが少し一段落ついて、そして勤める方が、約半分くらいいるのですけれど、そういった方たちはやはり色々な社会経験をつんで、常識もあるし、あるいは家計を助けるという、そういう思いがあるので、皆さん比較的長くお勤めいただいております。そういう方たちはたぶん、ご主人にそれなりに収入があって、さらに子育てをしたりという家計を助けるためにという目的がはっきりとしていて、働く自覚が高く、責任をもって働いています。逆に若い方たちで、私のところにもいるのですが、いわゆるフリーター、大学、専門学校を卒業して、その後に就職、働きたい仕事が明確でない、あるいは思ったところになかなか就職できないという流れで、１、２年勤めて、長くお勤めされて、私どもの、内情のことでみっともないのですけれども、正社員にしてあげられればいいのですけれども、なかなか正社員にするとコストがかかって、正社員にできないことがあります。結果、長くお勤めされていって、そのままなかなか結婚もままならないというようなことで勤めている方もいます。私ども、会社からするとすごく都合が良くていいのですけれども、その方の将来、先のことを考えた場合に、いかがなものかなと思うことがあって、アドバイスして、そろそろきちんと就職できる正社員として採用してもらえるところにアクションを起こしたほうがいいのではないかということを言うこともあります。あまり考えがまとまらないのですけれども、自分としてはやはりここの長野県、特に諏訪は、共働き率が高いというようなことがあるのですけれども、やはり働きやすい、稼げるまちになるということ、あるいは先ほどからお話があったように働きやすい職場があるということがすごく若い方、あるいは人間にとってはありがたいことだろうなと思います。なので、やはり働きやすい職場、働きやすいそういう企業も、稼ぎやすい環境に、行政なりが、何らかのかたちでバックアップしてくれることはすごくありがたいことですし、そうなればいいなと思います。少々論点がずれているかもしれませんけれども、岡谷市は制度資金が非常に充実していると、それは先ほど創業支援の枠組みもあるし、それは企業にとってすごくありがたくて、そしてそれができるのは行政だと思うのです。行政でそういうバックアップをしてくれることは企業にとってありがたいことで、そして企業が育ってくると働く場ができ、循環がつくることがとても良いと思います。  【意見】  自分もサービス業をやっておるのですが、女性がとても多い職場です。だいたい、７割くらいが女性でございます。新卒で入ってきていただいている方たちと、あとは中途採用の方、あとは１度子育てで退職された方がまた戻ってきてやっていただいております。そういう中で、やはり子育てで仕事をやめて、それから子どもを２人、３人くらい育ててまた戻ってくるという方が、ぼちぼちいらっしゃるのですが、そういう方たちはとても、前の仕事を知って、仕事の内容も全部知っていますので、うちとするととてもありがたい戦力になっております。その方たちが、始めは、パートタイムで入っておりますけれど、徐々に社員になっていっていただいていくというようなことがあります。とにかく子育てをしたあと、看護婦さんや色々もそのようですが、もう１度再就職しようというときに、どういうような手助けができるかということがとても大事ではないかなと思っております。あと先ほどまた少し話が飛んでしまいますが、私はこのたくましい産業創造戦略の中では、やはり子どもたちの人材育成システムですか、こちらは小池委員さんにもあげてもらってありますが、幼稚園、小学校、中学校くらいのころから勉強の中で商業だとか工業、ちょっとした体験を通しての仕事に関する喜びみたいなものを教えてあげられるような、よくありますけれどもキッザニアといいますか、消防体験したり、色々な体験ができるような、そういうようなことを、難しいかもしれませんが、事業の中でできることがあればいいのではないかなと思っております。  【意見】  女性の立場で、今のお三方の話をお聞きしていて感じたのですけれども、確かに企業を発展させるためには、優秀な人材というのは確かに必要だと思います。ただ、現状においてそれがすぐ優秀な人材が集まるかといったらこれから育てなければいけないというようなこともありますので、今この岡谷市だけでなく、実際の企業というと、女性がその元をしっかりと支えているような気がします。その勤める内容などそういうことは違いますけれども、やはり経験してきた、色々な人生を歩んできたその人たちが新たに仕事を持つ、仕事場で働くということに対しての責任感というのは本当に若い人たちがぽっと入ってきた人に比べたら、全然違うと思うのですね。その責任感というのはある意味では家庭の家計を助けるとかそういうようなこともあるかと思いますけれども、やはり今の現状では女性が本当に企業の中の色々なあまりいい条件でないところにもかかわらず、一生懸命働いているということを私は見逃してはいけないことだろうと思います。そのためにはやはり女性が働きやすい職場というかその条件というのは、今日も彼女はいらっしゃらないのですけれども、子育てしながら、それでも働かなければいけない、働きたいという人たちのための支援というのは、岡谷市の場合はかなり子育て支援が進んではいるのですけれども、それもさらに充実をしていき、今、多くの女性が責任をもって働くというこの現状に加えて、優秀な人材を育てていけたら、今後岡谷市の企業も発展していくのではないかと思います。そのような意味で、ぜひ、女性を、ないがしろにしないでほしいと、声を大にして言いたいと思います。以上です。  【意見】  先ほど少し申し上げましたけれども、少しここで市内の製造業の会社をお尋ねさせていただいております。２年か３年ぶりなのですけれども、実は、あることに気がつきました。それは、製造現場で、機械についている女性が非常に増えてきているなという、そういった私たちでは操作ができないような、すごいマシーンに女性がついていて、それでセット、入力をし、そして品物をつくっているということに、非常に女性がその現場に増えているなという感触をもってきております。そういった意味でいいますと今の委員さんがおっしゃったように、女性も会社の中で地位をきちんと築きつつあるのかなというふうに思っておりますし、その企業にとりましても、女性たちは大きな戦力になっているかなというふうに感じます。その中で経営者の皆さんにいわれているのが、こういう女性たちが頑張っている、だから女性たちが頑張っていけるような市行政の施策をやはり充実してほしいと、そういった注文は受けてもらっているところです。私たちこそまだ研究していかなければいけないなと。例えば今回は基本施策にもありましたけれども、学童クラブ、小学校３年生までのものを６年生まで対象を引き上げるとか、そういうことで、安心して女性たちが働いていけるようなまちのつくり方を、しっかりとつくらなければいけないかなというふうに思っております。いずれにしましても、女性が頑張っている姿をずいぶん拝見させていただきました。  【意見】  私も各企業を回っていますので、建設業から製造業、精密で多くの女性労働者を見ます。私自身、別の面で調べてみましたら、県の統計、ホームページからですけれども、岡谷市がいわゆる生産年齢人口、15歳から64歳までの人口の中で実際に働いている方の割合、いわゆる女性就業率が、岡谷市は長野県77市町村ある中で55番目。ちなみに、諏訪が38位、茅野は24位なので、そうすると女性の就業率はまだまだと言えるでしょうか。次に、高齢者の就業率はどうかというと、岡谷は74位。また、岡谷と諏訪を比べたときに、４月１日の岡谷の人口は50,334人ですよね。諏訪の人口が49,700人ですから、だいたい600人くらい岡谷が多いですが、15歳から64歳の人口でいうと、諏訪の方が、約1,000人多いです。茅野は岡谷よりも人口は5,000人多くて、その中で茅野の方が、15歳から64歳までの人口が4,000人多いです。私は諏訪とか茅野に早く追いついて追越せと言いたいのではなくて、その年齢層を増やすということは、岡谷市はもとより諏訪全体の活性化になると思います。何で岡谷が15から64歳の人口が少ないのか、少し調べてみたところ、実際に15歳というと中学生とか高校生ですので19歳までのところは、岡谷は結構多いのですが、20歳から24歳となるとがたっと落ちまして、例えば諏訪と比べてみても、49歳までは少ないです。50から55歳で逆転して、岡谷が多くなります。49歳というとどうでしょう。子どもさんが中学高校生くらいですかね。やはり若いときに働きたい、そういう世代がこの岡谷に集まってきていないのではないかなと思います。そのためには、皆様も言っているとおり、やはり働きたいと思う会社、あるいは魅力のある会社、ここを増やしてほしいなと思います。  ありがとうございます。大変貴重なご指摘かなというふうに思っているところでございます。次に進まないと時間がないので、すみません、色々なご意見をいただく中で、また次へ進めさせていただきたいと思います。次に会議事項の２の「ひとの流れ」に関する意見交換を議題といたします。先ほどもご説明申し上げました総合戦略骨子、基本戦略２に関わる個別計画としまして、観光と岡谷ブランドについて、事務局からの説明をお願いします。  （３）「ひとの流れ」に関する意見交換（基本戦略２　岡谷ブランド発信戦略）  ①観光、岡谷ブランドについて【資料１、資料３、資料４より説明】  ②意見交換  ありがとうございました。意見交換に入りたいと思いますが、その前にまず欠席の委員さんから意見をいただいておりますので、事務局よりお願いします。  【意見紹介】  では先ほどの意見・質問等連絡票でございますけれども、３ページ目になりますが、議題（２）ひとの流れに関する意見交換ということの、下の段落のところでございます。こちら、観光で大事なことは広域観光によりひとの流れを創出することだと。魅力的な観光要素があっても単発ではなかなか人は集まってこない。近隣市町村、観光、交通関係事業者との連携が非常に重要だと思います、ということであります。お客様のニーズと岡谷のどのような観光要素がマッチするのかわかりませんが、集客のチャンスは発掘できると思う。観光は情報発信が大事で、その情報発信の方法次第でこれまであまり注目されなかった観光地、観光要素も一気にブームになることがあると。新たな観光要素をつくり出すことは大変難しいと、大変かと思いますけれども、今ある観光要素を違った角度で新たな魅力をプラスし、宣伝展開が図れれば良いのではないかと考えていますということです。以上になります。  説明が駆け足になっています。それでは、ブランドブックや観光について様々な意見があるかと思いますけれども、自由に発言をしていただければいいかと思います。よろしくお願いします。発言がございましたら、挙手等でお願いいたします。  【意見・質問】  ただいま、ご説明いただきましたブランドブックのところで、１つ、質問というか意見というかなのですけれども、アクション１のところで、美しい湖畔を体験できるまちへというのがあるのですが、美しい湖畔のベースはやはり諏訪湖そのものが綺麗なこと、これが１番のアピールポイントではないかと思うのですが、残念ながら今の諏訪湖をみると、やはり岡谷を訪れる人の期待に耐えられるのかというと、そのレベルに達してはいないと思うのですが、その諏訪湖そのものを浄化する取り組みといったようなものは何かご検討されているのでしょうか。もしないとすれば、必要ではないのかと思うのですけれども、そこはいかがでしょうか。  【回答】  諏訪湖の浄化の関係ですけれども、諏訪湖については中長期的には非常によくなってきてはいるのですけれども、まだまだ問題はあります。最近の問題とすれば、ヒシが大量に繁茂しているですとか、貧酸素ということで生物が住めないというような、そういうような問題がありまして、それに対応を、湖全体の管理者自体が長野県建設事務所で担当しているものですから、そこを中心に、また関係機関、周辺の市町村を含めて全体で除草しましょうということで、その取り組みを一生懸命やっているところでございます。知事もこの前、現場を見て、しじみがとれる諏訪湖にしたいな、泳げる諏訪湖を実現したいなということで、諏訪湖に対する新たな取り組みも今年から、例えばしじみがとれるということについての実験を始めまして、色々と始めたところでございます。今、委員さんがおっしゃったとおり、皆に親しまれる、またそこで最終目的としては遊べるように、そんな諏訪湖にするための取り組みを官民混じって、これはやはり行政だけではできませんし、市民活動としての取り組みも必要だと思いますので、連携しながらやっていくということで、今、一生懸命取り組んでいるという状況です。  ありがとうございます。市とか湖周の周辺市町村、市民の皆さん、団体の皆さんのご協力もいただく中で、年に２回湖周の一斉清掃をやらせていただいております。お陰様で、やはり最初のころに比べますと随分とごみのポイ捨てなども減ってきておりまして、ごみの量も減ってきているのかなというふうに思っております。また、ヒシの問題も、ボランティアにもヒシを刈り取っていただく協力をしていただいているというような状況でございますし、県のほうも大変ご尽力がありまして、一度諏訪湖周辺、コンクリートで固めてしまったのですが、親水性を復活するとか、そういった努力をしていただいております。ただまだまだ道は遠いなというふうに思っておりますので、これからも継続して努力していきたいと思っています。  他にございますか。はい、お願いします。  【意見】  シルクの関係で、意見というか感想を述べさせていただきたいと思うのですが、去年富岡製糸場が世界遺産に指定されまして、私どもは全国260くらいの信用金庫があるのですが、富岡市にしののめ信用金庫というのがやはりありまして、普段、全国の担当者と話し合う、意見交換、話をする機会がありまして、職員からは、富岡製糸場の話から、岡谷があるから富岡製糸場があるというような話がたびたびあります。向こうの職員から、全然岡谷にゆかりもない職員なのですが、片倉のあった場所ということで岡谷に対する感謝とまではいきませんが、愛着をもっているということが本当に聞かれます。今回、信州ということで、連携ということなのですが、ぜひ、さらに幅広くシルクを結びつけた、例えば横浜とか埼玉ですとか、幅広い連携を結びつけていただいたらいかがかなというふうに思います。それから話を聞くと、シルク、当然産業としても幅広くさらに発展していってほしいのですけれども、なかなか話聞くと、桑が少なくなっているとか、桑が奪い合いになっているというような話も聞きますので、色々と系統立った産業育成というものをブランド育成のなかでは必要かなというふうに、感想として言っておきます。以上です。  【意見】  はい、ありがとうございます。信州シルクロード連携協議会というのを立ち上げさせていただきました。実は、私ども岡谷市が働きかけまして、上田市さん、須坂市さん、駒ケ根市さん、そして岡谷市の４市が発起市ということで、県内の15市町村、そして14の事業所、団体さんにご協力をいただいて立ち上げすることができました。それぞれシルクに関する遺構、文化、そういったものが残っているところがございますし、長野県が蚕糸王国、製糸王国・長野県といった時代があったわけでございましてそれをまずは活かしていこうというわけでございますが、ご指摘いただきましたように、経済産業局とか色々なところから、最終的は富岡、そして長野、八王子、横浜、こういった国内のシルクロードを結ぶような連携がつくれればいいなというお話をいただいておりますので、そういうふうにまた県内でやる中で固めていきたいというふうに思っているところでございます。私いつもこの話をすると１つだけ自慢のような話をさせていただくのですが、平成19年に、近代化産業遺産ということで、経済産業省のほうから、色々な近代化産業遺産があるわけですが、私どもは製糸、上州から信州、そして全国へというこういうキャッチフレーズで近代産業遺産の指定を受けました。そのときに、横浜の赤レンガ館で認定式がございまして、私とそのときは富岡市も一緒だったのですが、富岡市の市長さんと２人で段に並びまして認定をして戻ってまいりましたら、隣に座っていた方から声をかけられまして、岡谷市さんですかと。私どもの市は岡谷市さんのお陰で大きくなった市ですとおっしゃっていて、どちらですかといいましたら、横浜市ですと。横浜の公安局長さんだったのですけれども、座っていた方が。横浜港というのは、岡谷や長野県の生糸の出荷で大きくなっていったという、そういう横浜港でありまして、そのことで横浜市が大きくなっていったということを、横浜でも言われているということで大変嬉しく思ったところでございます。360万人の市ですからね。そういった市の礎がそういうところにあるのだなということを再認識させられました。今、言われたこともまた大切にしてまいりたいと思っています。他にありますでしょうか。  【意見】  下諏訪に諏訪大社というのがあるのだけど、岡谷には有名な出早雄小萩神社というのがあって、その周辺をこれから整備しようという、そういう話もありますので、塩嶺とあわせた公園にもなっておりますし、市の天然記念物の指定も受けておりますし、あの社倉というのは誇れるものだと思っておりますので、こういうのはブランドイメージの中に入って、私は大いに入って良いのではないかと思うので、ぜひ取り上げていただきたいと。交通の便からも、佐久のほうからも来ることができるし、インターチェンジも近くにあることだし、色々な観光の施設のできる要素というのはあると思いますので、それから山手のほうにいくと、色々な遺産といいますか、古墳といいますか、そういうようなものもたくさん存在していますので、出早雄小萩神社を中心にした遊歩道的なものとか、そういうようなものも構想の中ではこれからに向けてぜひやっていってほしいところだと思います。諏訪大社に匹敵する、諏訪大社の末席の神社になるわけですけれども、岡谷にとっては大きな財産だと思いますので、そのようなＰＲを、区としても何とかしていきたいというふうに思っていますので、よろしくお願いします。  はい、ありがとうございます。バイパスからも近いですし、今度、道のほうも整備すると思いますので、またその関係を聞きたいと思います。ブランドブックの中に、健康的でセンスのいい食に出会えるまちということで、担当してもらっているかなというふうに思いますが、少々ご意見をお願いいたします。  【意見】  このブランドブックを今から２年前から、湖に映える美しいものづくりのまち、それが人口が減少が抑えられて皆が住みやすいまちになるのではないかということを中心に、検討してまいりまして、私もその一員でございました。その中で、私は食品、ケーキをつくっていたものですから、その中で一部門として、この食のところを携わらせていただいておりますけれども、観光協会としましても、岡谷、諏訪地方には素晴らしい観光資源がたくさんあります。それがあまりにも多すぎて、皆さんが素晴らしいという、素晴らしすぎて自覚が少ないのではないかなと、そういうようなことで、最近はインターネットを見て岡谷市のホームページ、諏訪市、下諏訪町のホームページを見て、色々な方が少人数で、バスではきませんが、少人数で色々なところにいらっしゃっております。今の出早の話がありましたが、出早のほうにも、季節になるときている。春になると、色々のところから色々な花が咲いて一年中花が見られるような地域なのですけれども、その発信をもう少し上手にするということと、あとは岡谷に観光客がくるのだという、地元の人たちが意外と、観光客の方たちが出早に来られていても、どこから来られました、などという話になると、群馬からよく、どうして知りました、などということを言っているような、状態も少し見受けられまして、私たち何とか啓蒙していこうと思って一生懸命やっておるのですけれども、やはり素晴らしい施設のところには素晴らしい人たちがいて、微笑みの心といいますか、ホスピタリティと言うのですか、１つ、何か困っていそうな人たちがいたら助けてあげたいと思ったり、例えば車で、県外車の車が路地から出てきて、困っているようだったら、少し止まって、先に行かせてあげるだとか、そういうようなことも大事な一歩だと思います。岡谷市にも、観光客がたくさんきて、観光客の方たちが困ったり色々しているところを助けてあげようという、そういうのも第一歩だと思います。私の仕事のほうに戻りますけれど、やはり富岡の製糸場、岡谷と関係がとても深く、シルク、桑など、機能性食品と言われまして、今色々なものにこれは体に良いと言われているということがしっかり検査すると書けるようになってきております。うちでも、シルクのパウダーを宮坂製糸場さんから仕入れておりまして、素晴らしいシルクパウダーを何とかお菓子に活かしたいということで、クッキー、ソフトクリーム、お饅頭など、色々なものを、今、開発している最中でございます。とても自分でいうのも変ですが評価も良く、売れているような状態でございますけれども、まだまだただそれを入れているだけというようなところが見受けられますので、もう少し発信の部分に力を入れて発信していきたいと思っております。もちろん、他にも素晴らしい信州、岡谷の文化がございますので、それを今、観光客の方たちにも来てもらえるような、駐車場を広くしたり、各々が個人で大変ですけれどもそのような努力もさせていただいております。このブランドブックを中心にして、このアクションプランを何とか自分たちの仕事を通して発信できるのではないかなということで皆一生懸命やっているところでございます。以上でございます。  【意見】  ありがとうございます。このブランドブックでまとめたり、自らも、食のほうで何とか岡谷を発信したいと頑張っていただいているわけではございますけれども、それからこういった頑張りが、積み重ねが、またつながっていくのかなというふうに思うところでございますので、産業観光inおかやというこのパンフレットは製造現場の皆様にもご協力をいただいて、その超微細加工の最先端の加工ですとか、そういったものも今では知的好奇心を満足させる、そういった観光の要素となるということで、これは実は長野県のほうから最初に岡谷市のフォーラム、全国へのフォーラムでどうですかという持ちかけをいただきまして、平成24年だったか、全国産業観光フォーラムというのを設けて開催をさせていただきました。実は、その岡谷で観光という冠のついたフォーラムをやること自体、諏訪の周りの人たちは、え、という感じだったのですけれども、そのようなことでお陰様で、やらせていただいて、非常に好評でした。そしてその中に、小さい写真が入っているのですが、産業観光のお土産ということで、この精密コマの写真がございます。岡谷でもふるさと納税の促進をしておりまして、返礼品も少しこの４月から見直しをかけました。その中に、この精密コマを入れましたら、これが人気があるのですね。私たち、もちろん岡谷ですから味噌ですとかお酒も人気があるのですが、この精密コマと、もう１つ、山を削り出して山モデルと言っていますが、それも人気があるということで、岡谷の最先端のそういったものを世の中の人もおもしろがってみてくれるのかなという、観光の１つの要素となるのかなと、そういうところを再認識させていただいております。そのような紹介をさせていただきました。他にこの件につきましてご意見ありますか。どうぞ。  【意見】  ちょうど２週間ほど前になりますけれども、実は長野のほうから来られた方に言われたのが、諏訪湖汚いですねということなのですよ。要はここに住んでいる我々からすれば、いやいや昔に比べればえらい綺麗になったよというのが本音だったのですけれども、逆に考えてみますと、要は観光客とかいわゆる外から来られる方の印象というのはおそらくそうだろうなというふうに思ったわけですね。ですから、我々は綺麗になったというふうに考えてはいるものの、要は実ははたから見たら全然違いますよということをそこで改めて突きつけられたということですよね。ですから、やはり諏訪、あるいは岡谷に皆さん来られて、やはり非常にいい印象を持って、例えば口コミでそれが広がって、またリピーターになるというようなことを考えている場合には、やはり１番の観光資源である諏訪湖というのはもっともっときれいにしていかないとこれは駄目だなと、非常に痛感、その時にしましたね。それとあと岡谷の現状、これをみさせていただくと、１番来てほしい、あるいは住んでもらいたい20代30代の女性が１番岡谷についての認識がないというこの部分はやはり非常に残念だというふうに思いますね。先ほどの説明の中でやはりシルクの関係、絹コレというお話がありましたけれども、装苑であるとか電通であるとかもう一流のところが入ったかたちでの色々なプロモーションを展開するという今動きになっているところで、これはぜひ大々的にやっていただいて、これを継続していけることだと思いますので、岡谷というのもいわゆる昔はシルク、今はものづくり、製造業というふうに考えている方もいらっしゃると思うのですけれども、以前のシルクがこういう形で新たに脚光を浴びるというような形をぜひつくっていってほしいなというふうに思います。それと、こちらの産業観光おかやの味噌の関係ですが、諏訪には他にも味噌をつくっている、他の自治体でもつくっているところは随分あるわけですので、この辺というのは諏訪ブランドというふうなかたちでの展開というのも考えられたほうがいいのではないかなという気が非常にしますね。おそらく、諏訪地域にこんなに味噌をつくっているところが多いということ自体はおそらくほとんど知られていないのではないかなという気が非常にしますね。ですからそういった部分でやはり広域での連携というようなところを視野に入れて展開を図っていっていただければというふうに思います。以上でございます。  はい、ありがとうございました。色々なご意見をいただきました。諏訪湖のことに対しては確かに私たちも少々慣れ過ぎてしまっているのかなという感想を持ちました。そういった意味でも、きちんとやっていかなければいけないなというふうに思いますが、逆にこれはチャンスだとふうな意識をしていきたいと思います。確かに味噌は信州味噌と昔言いましたよね。長野県全体がやっていた時代がありますよね。ありがとうございます。  他にございますかね。要望も含めたりしてここまできましたけれども、また色々ご意見ありましたら、要望書といいますか、意見書でもって提案、提出していただければと、そういうふうにご意見・質問票に記入していただければと、そういうふうに思いますので、よろしくお願いをしたいと思います。ありがとうございます。とりあえずここまでにつきましては一応ここで閉めさせていただきまして、その他ということで事務局のほうからお願いいたします。  （３）その他  それではお願いします。レジュメのほうにも記載がございます。続いて第５回目ということでお願いしたいと思いますが、次回は８月26日の水曜日でございます。場所につきましては、ここ、同じく９階の大会議室でございますけれども、時間が今度は午前中ということで10時から12時ということでお願いしたいと思っております。それと、本日お手元のほうにお配りをさせていただきました意見書の部分でございますけれども、前回と同様にまたご意見のほうを記載をしていただいて、事務局のほうに提出をいただければというふうに思っております。できましたら、８月21日までのところでメール、もしくはファックス等を入れておいていただけますと、資料等ご準備ができますので、申し訳ございませんが、そのような形で開催の少し前にいただければありがたいと思っております。そこの記載の部分につきましては、今まで話した内容の部分も結構ですし、次回の子育ての部分、次回に行う予定でござますけれども、そういったものの意見も入れていただいても構いませんので、このまち・ひと・しごと地方創生に関するご意見をいただきたいというふうに思っております。もし都合が悪くてご欠席という方がありましたら、ぜひそこには記載をしていただいて、ご自分の意見を語っていただきたいというふうに思っております。最後にもう１つ、今、お手元に配ってございます、子育て支援ガイドブック、それと、岡谷市児童育成計画等につきまして、この次の第５回のときに内容としてまたお示しをさせていただきますので、中のほうをご覧いただいて、岡谷市のほうで取り組んでいる状況等もございますけれども、この他にもっとこういうことをしたらどうかというようなことをご意見をいただければというふうに思っておりますので、ぜひ中を一読いただいてお願いできればというふうに思っております。事務局からは以上であります。  ありがとうございます。一応、今日の会議事項ということで終了でございますが、今日の中で、これだけは言い忘れたとか、ここだけは発言していこうというようなことがありましたら、お願いしたいと思いますが。先ほどの雇用の問題ですとか、観光の問題ですとか、そういったものでありましたらご発言をお願いしたいと思いますが。とりあえずよろしゅうございますかね。また意見書や質問票ということでまたとりまとめをさせていただきますので、繰り返しでも結構でございますので、よろしくお願いをしたいと思います。それでは本日の会議事項を閉じさせていただきます。どうもありがとうござました。  （４　閉会）  それでは、以上をもちまして、第４回岡谷市まち・ひと・しごと創生有識者会議を終了といたします。ありがとうございました。 |

上記に相違ないことを確認する。

会長　　今井　竜五